

科目	高次脳機能作業療法学演習	担当	藤田 高史	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

高次脳機能障害者に対する神経心理学的評価方法を習得し、臨床場面で実践できるようする。高次脳機能障害者に対する作業療法介入方法について学ぶことができる。これらを修得することにより、高次脳機能障害者に対する作業療法を実施できるようになる。

【履修注意】

後半はグループ活動と発表が主体となる。毎回出席を原則とする。

【評価方法】

筆記試験は小テストのみ実施する。グループ活動は毎回、レポート提出を課す。評価は小テスト、レポート、出席状況、症例検討内容などを総合し判定する。

小テスト20%、レポートと症例検討内容70%、出席状況と応答内容10%とする。

【試験について】

(評価方法を参照のこと)

再試験対象者の条件: 課題レポートすべてを提出している、必要出席日数を満たしている者。

【予習・復習】

シラバスを確認し該当箇所を予習しておくこと。講義内容を復習し、積極的に質問すること。

【教科書】

書籍名:「高次脳機能障害作業療法学 改訂第2版 ゴールド・マスター・テキスト作業療法学(前期で購入済み)

書籍名:「高次脳機能障害ポケットマニュアル第2版」 出版社:医歯薬出版、を使用する。

その他、適宜、資料を配布する。

【参考書】

なし

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	高次脳機能障害の介入・援助①	右半球障害(USM、視覚失認など)のアプローチ
2	高次脳機能障害の介入・援助②	左半球障害(失行症、失語症など)のアプローチ
3	高次脳機能障害の介入・援助③とまとめ	記憶障害、注意障害系のアプローチ、小テスト
4	高次脳機能障害の介入・援助④	前頭葉障害(遂行機能、意欲低下など)のアプローチ
5	高次脳機能障害の評価と介入援助のまとめ	高次脳機能障害評価のまとめと小テスト
6	高次脳機能評価の実践①	認知系スクリーニング評価・MMSEの実践
7	高次脳機能評価の実践②	MCI評価・MoCA-Jの実践
8	高次脳機能評価の実践③	標準注意機能検査・CATの実践
9	高次脳機能評価の実践④	半側無視行動評価・BITの実践
10	高次脳機能評価の実践⑤	改訂高次動作性検査・SPTA-Rの実践
11	高次脳機能評価の実践⑥	遂行機能行動評価・BADsの実践
12	高次脳機能評価の実践⑦	記憶検査・リバミード行動記憶検査の実践
13	症例検討①	症例提示・評価方法検討
14	症例検討②	治療方法検討(グループで検討)
15	症例検討会発表	前頭葉、右半球、左半球障害者のレジメ発表
16	期末試験	15回の復習・確認・レジメ発表のまとめ